

しおさい通信

No. 7

平成24年11月号

指定就労継続支援B型事業所 しおさい
三崎：銚子市三崎町 3-82 TEL 23-9012
春日：銚子市春日町 2058-1 TEL 25-3475



門前軽トラ市 & 銚子市産業まつり参加

10月21日（日）、ココロド銚子（銚子銀座通り）で、毎月恒例の門前軽トラ市が開催され、しおさいも出店しました。

当日は、天気が良かったわりには人出が今一つという感じでしたが、しおさいのパンを見つけて購入して下さる方が多くあり、搬入したパンをほぼ完売することが出来ました。ありがとうございました。

10月の軽トラ市のテーマは「ハロウィン」でしたので、しおさいでもテントにカボチャとお化けのイラストを吊り下げ、雰囲気作りに協力しました。ちなみに、お隣のテントの女性店員2人は、カボチャと魔女の衣装を着用していましたよ～。



ハロウィンの吊り下げ飾り！



▲大盛況のしおさいブース

10月28日（日）、銚子漁港第三卸売市場を会場にして、第20回銚子市産業まつりが開催され、約3万8千人の人出で賑わいました。

今回も、パン・クッキー類や布製品の販売を行いました。皆さんに美味しい焼きたてパンを届けるため、職員が深夜に出勤して製造しました。

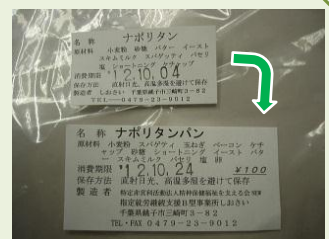
午前9時に開会すると大勢の市民が訪れて、しおさいのブース也大盛況となり、販売を担当したメンバーさんたち也大忙しで接客に当たっていました。お陰様で、用意した約300個のパンが、約1時間半で完売してしまいました。ありがとうございました。



パンラベル大判化

先般行われた海匝保健所による店舗検査において、表示内容について指摘されたパン袋に貼付しているラベルを順次大判化しています。

これまで製造者欄には「しおさい」と住所、電話番号を表示していましたが、法人名及びしおさいの正式名を表示することが望ましいとの指摘を受けての対応です。併せて原材料表示の順序見直しと商品名称の書体変更を行った他、新たに商品価格も表示して、視認性と利便性を向上させました。



幸せの黄色いレシートキャンペーン 贈呈式

10月11日（木）、イオンモール銚子で、幸せの黄色いレシートキャンペーンの贈呈式が行われ、しおさいからは田村さんが出席して、ギフトカードを頂きました。

今回は15500円の配分ありましたので、プリンター用のインクカートリッジを購入しました。お礼としおさいの説明をする田村さん一



毎月11日にイオンモール銚子でお買い物をして黄色いレシートを受け取りましたら、是非とも投函ボックスの「しおさい」へお入れ下さい。もしもお持ち帰りになってしまった場合は、捨てずにしおさいの職員等へお渡し頂ければ幸いです。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

な ず な 工 房 見 学 ～職員研修～

実務者会議の時間を利用して、東庄町にある笹川なずな工房へ職員研修を目的とした見学を9月20日（木）の午後に行いました。

広大な田園風景が見渡せる閑静な場所にあり、農家の納屋をイメージしたという外観の建物は良く整備されていて、築10年とは思えないほどきれいでした。また、建物内も清掃が行き届いていました。

同工房は、社会的な偏見や誤解の多いため、働く意欲がありながら就業のチャンスに恵まれない人たちが、社会的自立のための訓練を行い、経済的自立を支援するための生産活動及び販売活動を行うことを目的とした施設で、組織的には製パン班と農産加工班に分かれています。

今回の研修では、製パン班を中心に見学をさせて頂きましたが、それに先立て施設長の荒井道貴さんから、なずな工房の概要や施設の説明を受けました。この中でしおさい一同が関心を示したのが、ジャム用のイチゴの確保方法でした。

東庄町はイチゴの産地として有名ですが、その中でも観光バスが来てイチゴ狩りを行う規模の大きい農園と提携し、観光客などが週末に取り残したイチゴを、なずな工房の皆さんが採りに行き、それを使っているそうです。そのイチゴを巨大冷凍室に保存して、ジャムなどを製造する際に出して使っていました。見学の際、冷凍室も開けて見せて頂きましたが、これにはしおさい職員一同、^{きょうがく}驚愕の一言でした。

一方、農園側としても、従来パートさんを雇って残っているイチゴを取り除いて廃棄処分にしていましたが、それにかかる経費が無くなり助かっているとのこと。その上、なずな工房で製造したイチゴのマフィンやジャムなどを販売することによって収益増に結びつけることが出来ているそうで、いわゆる“ウインウイン”（双方がともにうまく行っている）の関係が出来上がっていました。

パン類の販売も、職員の体制や利用者の通所の関係から、夕方を中心に東庄町及び香取市の行政機関や高校などへ行っているとのこと、これも驚きの一つでした。

なずな工房のこうした取り組みは、東庄町も永年の関係により理解を示していて、町が発行する観光ガイドブックで紹介してくれるなど、観光物産品の少ない東庄町のイメージアップに一役買っています。

今回の研修（見学）は、設備や製造に関して少なからず刺激になった部分がありましたので、今後の生産活動に生かして行きたいと思います。



▲笹川なずな工房



▲品揃え豊富なパン



▲担当職員に質問中



▲ジャムなどの加工品製造室

編集後記

今年度も10月までの7ヶ月間、旭中央病院付属看護専門学校から計20回（毎回1人～2人）、学生が実習に訪れました。午前中は主にパン製造を体験し、午後から山本施設長による“カンファレンス”（福祉や作業所について説明する講義）が行われます。この中で山本さんは、必ずと言っていいほど、学生に「どうして看護師を目指そうと思ったのか」と尋ねます。するとほとんどの学生が、親族や知人が病気などで入院した時に見た看護師の仕事ぶりに憧れたことを口にします。折しもiPS細胞（新型万能細胞）が話題になるなど、医学や医療技術はものすごい勢いで進歩しているので勉強は大変だと思いますが、どうか病で苦しむ人たちを救える「白衣の天使」（表現が古い？）となって活躍して下さいことを期待しています。